

「愛別離苦」を乗り越える



「合格」「就職」「結婚」。

新しい門出を迎える本人は、「一人暮らし」「新居」での新生活スタート！でワクワク。しかし、それを見送る家族はメソメソ...

子供の旅立ちは、親の立場では悲しい「別れ」でもありますからね。

仏教用語の「四苦八苦(しくはっく)」。

その苦の中の一つに「愛別離苦(あいべつりく)」があります。

文字通り、「愛する人と別れ離れなければならない苦しみ」です。

その「愛別離苦」を今回の東日本大震災で、多くの日本人が身近に実感した、いや、現在進行形だと思われます。

家族や仲間との生活は永遠ではなく、必ず「別れ」が来るということを。

親の心、子知らずとは言いますが...

被災された東北関東のお客様の慰問を決意したのが、大震災から1週間後。その旨、両親にも伝えました。

納得してくれたものの、出発1週間前になって母親から

「やはり今は行くタイミングではないと思う。行かないでほしい」という後ろ髪を引かれるメールが.....(汗)

その日に逢って話をし、了解してもらいました(させました、が正しいか...)

しかし今度は出発3日前。

義父から中止要請の電話が妻にあり.....(大汗)

「御心配かけました。私だけ行きます。妻は留守番させます」と、義父に詫言なんとか一件落着と思いきや、今度は行く気満々だった妻が涙で消沈し.....。

「うるさい！ 夫婦2人で決めたことだ！ いちいち口出しするな〜！」

そう、親にも義父にも反発したい気持ちもありましたが、その心配してくれる親心もわかるだけに、最後は「もう全部キャンセルだ！」と投げやりに.....。

しかし「太田東西かわら版4月号～被災地を訪れて」が実現できたのは、息子らが背中を押してくれたからです。

「2人で決めたんだろ、行って来いよ、俺らはオヤジたちを誇りに思うよ！」この一言で、「行く！」と決心しました。

「親が心配してくれるのは、有難い」

「親を心配させるのは、申し訳ない」

そう、思いました。

一方で

「オレたちをもっと信じてほしい！」

「無事を信じて祈っていてほしい！」

とも、思いました。

親の反対を押し切って～という行動は、すべて親不孝なのか？

久々に、深～く悩みました。

「最高級の甘やかし」子育て

終息の気配が見られない福島原発事故と地震。

東北関東方面にお子さんを出している親御さんは心配だとお察しします。

神奈川県で一人暮らしをしている大学生の娘さんを持つお母さんに

「お嬢さんのこと心配じゃありませんか？ 放射能もですが、東海大地震が起きたら、神奈川は津波の被害も考えられますし…」と伺ったところ

「心配は心配ですよ。でも娘には、『その時は皆がそうなんだから、あきらめなさい』と伝えてあります。11日の揺れには驚いて、こっち（佐賀）に帰りたいと言っていましたが、学校がとても忙しいようで、帰らず向こうで頑張ることに決めたようです」

なんと、サッパリしたお母さんでしょう！

ですが、共感できない方もきっと多いはず。

「ちょっと親として薄情過ぎない？」

「よく、子供に『あきらめなさい』なんて言えるわね」

「私だったら強制的にでも帰って来させるわ」

太田東西はこちらのお母さんとお話をしながら感じたのです。

それは薄情でも放任でもなく、逆に「最高級の甘やかし」をされているんだと。欲しいものをホイホイすぐ買ってあげる甘やかしとは、質が違います。

「子供のやりたいようにやらせてあげたい」

「子供の思うようにさせてあげたい」

子供の自主性を尊重し、それを育てていらっしゃるお母さんなんだと。

「個」から構成される家族という集団は、永遠に集団ではなく、やがて別々の「個」に離れていく宿命があります。

出会う、別れる。

生まれて、死んでいく。

この新陳代謝を、人間は繰り返し、その中で「愛別離苦」が生じています。

愛別離苦を最小限に抑えるためには、必然の別離を忘れずに受け容れながら家族の中でも、「個」を尊重する付き合い方が必要ですね。難しいですけど…。

愛別離苦を「感謝」で溶かす

太田東西薬局内のカメ（スッポンモドキ）に始まり、動物好きの我が家ではうさぎ、ニワトリ、熱帯魚、コザクラインコ、極めつけはフクロモモンガを飼っておりまして、内情を知る人は、我が家を「ムツゴロウ一家」と揶揄しているようです（笑）。

そんなムツゴロウ一家に、4月は愛別離苦が2つもありました。

右のコザクラインコ。

私の誕生日に買い求め、かわいがっていたのですが外で日光浴させている間に、自分でカゴの扉を開け逃げてしまいました。

あ~~~~、と凹んでいたら、近所の木の上にいるところを発見！有頂天になって捕まえようとしたら目の前でトンビにさらわれてしまいました...（泣きました）。



右のニワトリ。

雌鶏でたくさん卵を産んでくれました。

10年生きてくれました。

長男が飼い主でしたが、なんとその長男が連休で帰省して来たその日に亡くなったのです。

きっと頑張って帰りを待っていてくれたんだ...と家族で偲びました。



人間もペットも、愛するものとの「死別」は辛いです。

食事もビールも美味しくなくなります。笑顔も会話もなくなります。

しかし、そうした憔悴した暗い光景を、旅立った立場が喜ぶだろうか？

「インコにはもっと長生きさせてあげたかった...」としばらくは自分を責め、後悔しましたが「いや、5ヶ月だったけど皆でたくさんかわいがってあげた。だからきっと、ありがとうと喜んでくれているはずだ!」と、思い直しました。

別れは悲しい。でも、それを「苦しみ」にしてはいけない。

「ごめんなさい...」よりも、「今までありがとう!」という思い方に変える。

別れの悲しみを、「ありがとう」の感謝の思いに置き換えていく。

これが太田東西流、愛別離苦の乗り越え方です。